



らぶく
La・BOOK

7月号

No.97

『ひまわりボランティア』と
児童館の子どもたち



明科図書館は、学習館、児童館と一緒に施設「明科子どもと大人の交流学習施設『ひまわり』」の中にあります。

先日、三館一緒の大掃除の日に、「ひまわりボランティア」の方8名が来てくださり、私たち職員とともに、窓ふきや草取り、ラベルはがしなどの作業をしてくださいました。また、終了後には私たち職員との懇談の時間もあり、いい交流の機会となりました。

「ひまわりボランティア」の方々は、この明科図書館の設立当時に関わった人たちで、図書館への思い入れや愛情が深い人たちです。この日も懇談の中で、設立



当時のエピソードなどたくさん話してくださいました。「窓ふきでも草取りでも掃除でも何でもやるからね。いつでも声をかけてよ」と言ってくださいます。そんなボランティアの人たちの熱意に支えられている明科図書館です。

児童館も併設されているため、児童館を利用している小学生も図書館に顔を出してくれます。本を読んだり、DVDを見たり、インターネットを使って調べたりと毎日のように多くの子が図書館を利用してくれています。



先日、新一年生の子どもたちに図書館の利用のしかたを説明しました。「大きな声を出して騒いではダメ」「インターネットは30分」「決まりを守って、いっぱい利用してね」「はい」

午後4時くらいになると子どもたちが顔を出します。子どもたちがいる図書館は何となく心が和らぎます。今日も子供たちが来るのが待ち遠しいです。

堀金図書館

奮闘!?調べもの日記(レファレンス)

日中の歴史を見つめる朝顔の種

清朝最後の皇帝、愛新覚羅溥儀の弟、溥傑をご存知でしょうか。妻は日本の侯爵家から嫁いだ浩。「流転の王妃」で知られます。戦争で引き裂かれた溥傑夫妻が再会できたのは終戦から16年後、北京へ帰る浩が日本から持参したのは朝顔の種でした。仲睦まじく暮らした愛新覚羅家の庭に美しく咲いた朝顔。浩が亡くなった後も、溥傑はこの朝顔を大切に育てたといいま

す。溥傑が亡くなり、日本に暮らしていたご息女が中国の家を訪れ、種を持ち帰りました。そんな経緯を背負った朝顔の種が、エッセイスト張さつきさんを通して、安曇野市のSさんに届けられました。そして、有難いことに昨年、Sさんより分けていただき明科図書館で花開きました。今年も堀金図書館でも育てています。

濃いピンクに白い縁取りのある大輪の朝顔を、来館した皆様にお見せできたら幸いです。

身近な物に秘められた物の由来から、今に繋がる歴史に触れ、平和の意味を考えるきっかけとなりました。



<関係資料>

- 『流転の王妃 愛の書簡』 福永 燐生 著/文芸春秋 2011年
- 『流転の王妃 満州宮廷の悲劇』 愛新覚羅浩 著/中央公論社 1959年
- 『わが半生 満州国皇帝の自伝』上・下 愛新覚羅溥儀 著/筑摩書房 1988年
- 『KOBE NOTE エッセイ』より 日中友好の朝顔咲く 張さつき 著 2015年

私と図書館

わくわくを胸に

松下 彩

幼い頃は、図書館に行くことが日常と切り離されたような静けさと、自分の背丈を超える書架にぎつしり並んだ本に圧倒された記憶があります。読み切ることができないような本の山を前に、これほどの物語や情報が蓄積されていることに對し、幼心に感動を覚えたのだと思います。

デジタル化した情報があふれる現代では、図書館は必要か?と問われる場面が多々あります。役立つ情報はインターネットですぐに手に入るからです。しかし、直接すぐに役立つかどうかとは無縁な問いこそが、より心を豊かにするものではないでしょうか。そして、そんな問いに答えてくれるのが図書館であり、思いもよらない問いが生まれる場でもあると感じます。

おとなも子どもも、たくさんの方が、わくわくした気持ちで胸に図書館へ訪れてほしいと願っています。



6月貸出ランキング

一般書

- 1 素敵な日本人／東野圭吾
- 2 流人道中記 下／浅田次郎
- 3 虚ろな十字架／東野圭吾
- 4 危険なビーナス／東野圭吾
- 5 マスカレード・イブ／東野圭吾
- 6 蜜蜂と遠雷／恩田陸
- 7 流人道中記 上／浅田次郎
- 8 炎天夢／今野敏
- 9 カッコウの卵は誰のもの／東野圭吾
- 10 昨日がなければ明日もない／宮部みゆき



児童書

- 1 新 13歳のハローワーク／村上龍
- 2 のりものつみき／よねづゆうすけ
- 3 だるまさん／かがくいひろし
- 4 ふしぎ駄菓子屋銭天堂 13／廣嶋玲子
- 5 くつついた／三浦太郎
- 6 もこもここ／谷川俊太郎
- 7 かいけつゾロリなぞのおたから
大きくせん 前編／原ゆたか
- 8 くだもの／平山和子
- 9 しろくまちゃんのほっとけーき
／わかやまけん
- 10 ポプラディーン仕事・職業 1／ポプラ社



AV資料

- 1 借りぐらしのアリエッティ／米林宏昌
- 2 寅次郎恋やつれ／山田洋次
- 3 寅次郎物語／山田洋次

豊科図書館から

本のソムリエ(司書)おすすめ本

一般書

『土を喰う日々』

—わが精進十二カ月—

水上勉／著 新潮文庫新潮社
当時軽井沢に住んでいた著者の食のエッセイです。月毎に描かれる旬の食材への愛が、たくさん詰まっています。

表紙

著者自ら腕をふるう料理の描写にも、思わずゴクリと喉が鳴ります。

少年の頃、京都の禅寺で暮らし、畑にあるものを使って料理を編み出していたという精進料理を覚えてから、旬を喰うということは、土を喰うことだと思ったそうです。

この本を読んで、安曇野の土からいただく恵みを味わってみてください！

児童

『みどりのゆび』

モーリス・ドリュオン／作
安東次男／訳 岩波書店

お金持ちの家で育った少年・チトには、触れたところに草花を芽生えさせるふしぎな力、「みどりのゆび」がありました。

表紙

チトは町中に花を咲かせて世の中をよくしていこうとしますが、一方でお父さんが戦争のための兵器を作っていることを知ります。

「なぜ他の人と同じじゃないといけないの?」「なぜ争いは起こるの?」という疑問を持ったら、ぜひ読んでみてください。深く、やさしく、美しいお話です。

安曇野市図書館からのお知らせ

「本のサマーギフト」を開催します (7月28日(火)～8月10日(月))

家で過ごす時間が多くなっていることと思いますが、そんな時だからこそゆつくりと読書などいかがでしょうか? 司書がテーマを決めて選んだ本を、お好みに合わせてお借りいただき、読書をお楽しみください。



「郷土資料の巡回展示」が始まります (8月1日(土)～)

「安曇野のタカラ」と題し、「建物」・「道祖神」・「堰」・「山」、そして「安曇野が登場する小説」の郷土資料を揃え、それぞれのテーマ展示毎、市内の図書館を巡回します。どうぞご覧ください。

編集・発行・お問い合わせ



中央図書館 ☎84-0111
豊科図書館 ☎71-4022
三郷図書館 ☎76-3078
堀金図書館 ☎72-3601
明科図書館 ☎62-1122

(図書館ホームページ(蔵書・資料の検索もできます)
<http://www.city.azumino.nagano.jp/site/tosho>)

※編集後記※
第163回芥川賞直木賞の候補作品が発表されました。今回の注目は、芥川賞候補の赤い砂を蹴るの著者である、石原燃さんは、太宰治のお孫さんということで、受賞されるか楽しみです。ふと「走れメロス」は、中学校の教科書だったかなあ、と思いついてしまいました。選考は、7月15日に行われるそうです。

